

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援リフト		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 10日 ~		令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ~		令和7年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全職員がこどもの行動心理を理解し、愛情と受容を持って接してくれるので不安が強いお子さんでも安心感を得られ過ごしやすいです。	支援者も本気で遊びに参加し、悔しいがる姿やそこからの切り替えやコミュニケーションをに自然と触れる機会を作っています。事業所側が提示することだけに取り組むのではなく、こども達の意見や要望を聞き、支援内容に取り入れています。	様々なルールや取り組み方を用意し、利用者に今必要な支援をピンポイントで提供できるようにしていくよう検討します。
2	室内でも体を動かせる広さがあるため、こども達が好きな運動系の遊びを展開しやすいです。そのため能動的に活動に参加しています。	ダイナミックな遊びができる反面、ケガのリスクもあるため、環境調整には注意を払っている。	遊びの幅を広げるために様々な用具を導入していく。
3	発達に合わせてプログラムの取り組みに変化をつけ、充実した取り組みになるようにしている。	同じプログラムでも、発達に合わせてアプローチを変えている。子どもたちがチャレンジできる環境を整え、自ら意欲的に取り組めるように取り組みのアプローチを職員同士で話し合っている。	各職員が自分の得意な分野で力を発揮しながらこどもにとって良い支援環境を作っていきたい。そのために個々のスキルアップが大切になってくるため、個々に対して目標設定を行い取り組んでもらう。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の交流が出来ていない。	どのような形で開催することが良いのか定まっておらず、後回しになっている。	親子レクリエーションのように参加しやすい内容からスタートしていこうと考えています。
2	地域の他のこどもとの交流機会が不足している。	交流するきっかけが少なく、公園での活動時に地域の児童と関わる程度である。	地域のイベントへの参加していく。
3	通所時の様子の共有が不十分な面がある。	連絡帳アプリで写真の共有等は行っているが、モニタリング以外でも情報共有できる時間があるとより良いのかもしれないです。	2〜3ヶ月に1度面談できる機会を作っていきたいです。